

共催プログラム

第1日 11月5日（木）ランチョンセミナー

12:00～12:50

<ランチョンセミナー1> 第1会場「エミネンス」

共催：エーザイ（株）/バイオジェン（株）

「抗アミロイドβ抗体時代のアルツハイマー病診療最前線」

座長：勝野 雅央（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）

- （1）抗アミロイドβ抗体時代におけるアルツハイマー病バイオマーカーの最新トピックス

栗原 正典（東京都健康長寿医療センター脳神経内科）

- （2）AD病態から考える抗アミロイドβ抗体薬の治療戦略

石渡 明子（日本医科大学付属病院認知症先端治療センター）

<ランチョンセミナー2> 第2会場「コンコードB」

共催：小野薬品工業（株）

「ウェアリングオフ早期治療への手がかりと治療選択」

座長：西川 典子（順天堂大学医学部神経学講座）

- （1）レボドパ血中濃度プロファイルから紐解くウェアリングオフ対策

永井 将弘（愛媛大学医学部附属病院臨床薬理神経内科）

- （2）PD治療開始後に訪れる“ウェアリングオフ”におけるパダライムシフト

～PD治療で何を恐れ、何に配慮すべきか～

樽野 陽亮（山梨大学医学部内科学講座神経内科学教室）

<ランチョンセミナー3> 第3会場「コンコードA」

共催：田辺ファーマ（株）

「NMOSD/MGの治療」

座長：檜沢 公明（総合花巻病院脳神経内科）

- （1）視神経脊髄炎スペクトラム障害のこれまでとこれから

富沢 雄二（順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経内科）

- （2）gMG治療の現状と展望

渡邊 充（九州大学病院脳神経内科）

<ランチョンセミナー4> 第4会場「コンコードC」

共催：アッヴィ（同）

「パーキンソン病におけるL-dopa持続皮下注療法の役割—CDDの意義と実践—」

座長：渡辺 宏久（藤田医科大学医学部脳神経内科学）

- （1）CDDの意義とヴィアレブ外来導入のポイント

池中 建介（大阪大学大学院医学系研究科神経内科学）

- （2）ヴィアレブをいつ始め、どう続けるか：レボドパ持続皮下注療法のエビデンスと実践

坪井 崇（名古屋大学医学部附属病院脳神経内科）

<ランチョンセミナー 5> 第5会場「錦」

共催：アレクシオンファーマ（同）

「補体標的治療で解き明かす NMOSD—QOL 向上への新戦略」

座長：千原 典夫（神戸大学大学院医学系研究科内科学講座脳神経内科学分野）

（1）なぜ補体なのか？

横山 和正（東静岡神経センター）

（2）NMOSD の基礎と臨床 ～ QOL の向上を目指した治療戦略～

佐藤和貴郎（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカル
センター開発戦略室）

<ランチョンセミナー 6> 第6会場「花 A」

共催：（一社）日本血液製剤機構

「分子標的薬の時代に考える gMG の IVIg 療法」

座長：村井 弘之（国際医療福祉大学医学部脳神経内科学）

演者：鈴木 重明（東京都立神経病院脳神経内科）

<ランチョンセミナー 7> 第7会場「花 D」

共催：バイオジェン・ジャパン（株）

「SOD1-ALS の遺伝と診療のアップデート」

座長：和泉 唯信（徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床神経科学分野）

（1）*SOD1*-ALS —遺伝学的理解とトフェルセン治療経験—

西山亜由美（東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野）

（2）*SOD1* 関連疾患スペクトラム —ALS と IPN—

安藤 匡宏（鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経内科）

<ランチョンセミナー8> 第1会場「エミネンス」

共催：日本イーライリリー（株）

「早期アルツハイマー病治療戦略 up to date」

座長：猪原 匡史（国立循環器病研究センター脳神経内科）

- (1) 抗アミロイドβ抗体薬治療：地域におけるアルツハイマー病のマネジメントと治療薬のポジショニング
木村 成志（大分大学医学部神経内科学講座）
- (2) 見えてきた早期アルツハイマー病の治療戦略
小野賢二郎（金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学）

<ランチョンセミナー9> 第2会場「コンコードB」

共催：第一三共（株）

「がん関連神経障害性疼痛における治療アプローチを考える」

座長：関 守信（慶應義塾大学医学部神経内科）

- (1) 化学療法誘発性末梢神経障害ガイドラインの内容と診断・処方の現状
吉田陽一郎（福岡大学病院医療情報部，消化器外科兼務）
- (2) がん患者さんのQOLを支えるニューロパチー診療：オンコロジストとの協働
三澤 園子（東京科学大学脳神経病態学分野（脳神経内科））

<ランチョンセミナー10> 第3会場「コンコードA」

共催：ノバルティスファーマ（株）

「多発性硬化症における治療と就労・社会生活をつなぐ— Bridging Cure & Careの視点から考える両立支援—」

座長：清水 優子（東京女子医科大学脳神経内科（医療安全科兼務））

- (1) 治療と就労・社会生活をつなぐMS診療—患者さんの将来を見据えた Cure & Care—
野原千洋子（東京都立荏原病院脳神経内科）
- (2) 企業と主治医の協働による難病両立支援の実践—産業医が主治医に期待する主治医意見書の記載とは—
武藤 剛（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座）

<ランチョンセミナー11> 第4会場「コンコードC」

共催：アルジェニクスジャパン（株）

「gMG 薬物治療アップデート」

座長：今井 富裕（国立病院機構箱根病院神経筋・難病医療センター）

- (1) gMG 治療におけるエフガルチギモドの戦略的活用—使用経験から考える早期介入の意義—
長沼 亮滋（国立病院機構北海道医療センター脳神経内科）
- (2) gMG 治療におけるヒフデュラの役割—導入から継続治療を意識したヒフデュラの使い方—
増田 眞之（東京医科大学神経学分野脳神経内科）

<ランチョンセミナー12> 第5会場「錦」

共催：太陽ファルマ（株）

「パーキンソン病治療におけるL-ドパ再考—作用メカニズムからジスキネジア対策まで—」

座長：前田 哲也（岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野）

- (1) L-ドパ誘発性ジスキネジアの発現機序とその対応
西寫 春生（弘前大学医学部附属病院脳神経内科）
- (2) パーキンソン病におけるL-ドパの作用メカニズム再考
渡辺 宏久（藤田医科大学医学部脳神経内科学）

<ランチョンセミナー 13> 第6会場「花A」

共催：帝人ファーマ（株）

「痙性斜頸・眼瞼痙攣におけるボツリヌス療法」

座長：坪井 義夫（つつみクリニック福岡パーキンソン病専門外来センター／順天堂大学）

三原 雅史（川崎医科大学神経内科学）

（1）眼瞼痙攣に対するボツリヌス療法の有効性・安全性 —国内臨床試験成績を踏まえて—

向井 洋平（国立精神・神経医療研究センター脳神経内科）

（2）痙性斜頸におけるボツリヌス療法の有効性・安全性 —国内臨床試験成績を踏まえて—

宮本 亮介（徳島大学病院脳神経内科）

<ランチョンセミナー 14> 第7会場「花D」

共催：塩野義製薬（株）

「ALS 診療・治療とその課題」

座長：青木 正志（東北大学大学院医学系研究科神経内科学）

演者：和泉 唯信（徳島大学脳神経内科）

<スイーツセミナー1> 第2会場「コンコードB」

共催：アルジェニクスジャパン（株）

「CIDPの最適治療を考える」

座長：山崎 亮（愛媛大学大学院医学系研究科脳神経内科・老年医学講座）

- (1) CIDP治療の最適化を目指して：多面的に考える治療戦略
水地 智基（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）
- (2) CIDP長期治療戦略を再考する — ADHERE試験と実臨床経験からみた維持療法の選択 —
岡本 智子（国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科）

<スイーツセミナー2> 第3会場「コンコードA」

共催：小野薬品工業（株）

「パーキンソン病の多職種連携 — チーム医療がもたらす患者・介護者へのベネフィット —」

座長：武田 篤（順天堂大学大学院医学研究科共同研究講座／国立病院機構仙台西多賀病院）

- (1) チームで支えるパーキンソン病 — 医療の先に生活を見据える —
長谷川有香（国立病院機構西新潟中央病院／パーキンソン病センター）
- (2) 地域パーキンソン病診療に貢献する — 当院パーキンソン病多職種連携ケアサポートチームの実践 —
阿部ななみ（国立病院機構西新潟中央病院リハビリテーション科）

<スイーツセミナー3> 第4会場「コンコードC」

共催：日本メジフィジックス（株）

「パーキンソン症候群および認知症の日常診療において核医学検査で診えること！」

座長：波田野 琢（順天堂大学医学部神経学講座）

- (1) 臨床画像研究から迫るパーキンソン病関連疾患
戸恒 智子（国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科・パーキンソン病センター）
- (2) 病理像からパーキンソン症候群や認知症の核医学検査をふりかえると
吉田 眞理（愛知医科大学加齢医科学研究所）

<スイーツセミナー4> 第5会場「錦」

共催：住友ファーマ（株）

「パーキンソン病に対するiPS細胞移植治療 — 第I/II相試験から臨床実装を目指して —」

座長：長谷川隆文（国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科）

演者：澤本 伸克（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻未来システム・技術部門）

<スイーツセミナー5> 第6会場「花A」

共催：藤本製薬（株）

「希少疾患にどう気づくか？～脳髄黄色腫症の診断ポイントと臨床実践～」

座長：三澤 園子（東京科学大学脳神経病態学分野（脳神経内科））

- (1) 脳髄黄色腫症の疾患概念と診断のポイント
小山 信吾（国立病院機構山形病院脳神経内科）
- (2) 症例から学ぶ脳髄黄色腫症
中村 勝哉（信州大学医学部附属病院脳神経内科，リウマチ・膠原病内科）

＜スイーツセミナー 6＞ 第7会場「花D」

共催：ヤマサ醤油（株）

「自己免疫性ノドパチーを理解するー診断と治療のつながり」

座長：澁谷 和幹（千葉大学医学部附属病院脳神経内科）

演者：緒方 英紀（九州大学病院脳神経内科）

<イブニングセミナー1> 第2会場「コンコードB」

共催：Alnylam Japan（株）

「Common Disease に潜む希少疾患」

座長：小野賢二郎（金沢大学医薬保険研究域医学系脳神経内科学）

- （1）ATTR_v アミロイドーシスの診断と治療—末梢神経障害の観点から—
松島 理明（北海道大学保健センター北海道大学病院臨床遺伝子診療部脳神経内科）
- （2）脳梗塞の陰にある心アミロイドーシス ATTR-CM の診断・治療と脳卒中リスク
山野 嘉久（聖マリアンナ医科大学脳神経内科学）

<イブニングセミナー2> 第3会場「コンコードA」

共催：エーザイ（株）

「高齢PD患者に対するMAO-B阻害薬の位置づけ：基礎から臨床まで」

座長：赫 寛雄（東京医科大学神経学分野）

- （1）PDの病態の特徴を読み解く～加齢とMAO-Bの関連性も含めて～
高橋 牧郎（関西医科大学神経難病医学講座（脳神経内科））
- （2）高齢PDの治療とMAO-B阻害薬の臨床エビデンス
馬場 徹（国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科）

<イブニングセミナー3> 第4会場「コンコードC」

共催：アレクシオンファーマ（同）

「重症筋無力症の最前線」

座長：増田 眞之（東京医科大学神経学分野脳神経内科学）

吉村 俊祐（長崎大学病院脳神経内科）

- （1）AChR抗体陽性重症筋無力症における神経筋接合部の破壊とその病態
吉村 俊祐（長崎大学病院脳神経内科）
- （2）重症筋無力症における治療戦略の進化：これからの選択肢を考える
増田 眞之（東京医科大学神経学分野脳神経内科学）

<イブニングセミナー4> 第5会場「錦」

共催：CSL ベーリング（株）

「CIDP治療：どこを目指し何を見てどう対処するか？」

座長：畑中 裕己（帝京大学医学部附属病院 / 神経筋電気診断センター）

- （1）CIDPの病態から考える集学的治療アプローチ
林 幼偉（国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科診療部）
- （2）CIDP治療の課題をどう克服するか—実践的アプローチと今後の展望—
古賀 道明（山口大学大学院医学系研究科保健学専攻）

＜ランチョンセミナー 15＞ 第1会場「エミネンス」 共催：Johnson&Johnson/ ヤンセンファーマ（株）
「Sustained Disease Control を目指した gMG 治療戦略」

座長：藤 陽子（東京都立神経病院脳神経内科）

- (1) 重症筋無力症治療をどう組み立てるか～治療選択から考える IMAAVY の臨床的位置づけ～

布施 彰久（川崎市立川崎病院脳神経内科）

- (2) なぜ、アイマービー？～MG 治療戦略を考える～

櫻井 謙三（聖マリアンナ医科大学脳神経内科学）

＜ランチョンセミナー 16＞ 第2会場「コンコード B」 共催：エーザイ（株）
「早期からの ALS 診断と治療」

座長：漆谷 真（滋賀医科大学脳神経内科学講座）

演者：熱田 直樹（愛知医科大学医学部内科学講座（神経内科））

＜ランチョンセミナー 17＞ 第3会場「コンコード A」 共催：ユーシービー・ジャパン（株）
「重症筋無力症」

座長：中原 仁（慶應義塾大学医学部神経内科）

- (1) gMG 治療戦略における FcRn 阻害薬リスティーゴ® の位置付け：Start FcRn-In for early disease control

王子 聡（埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科）

- (2) 早期からの目標達成を実現する治療戦略とジルビスク® の位置付け

高橋 聖也（昭和医科大学藤が丘病院脳神経内科）

＜ランチョンセミナー 18＞ 第4会場「コンコード C」 共催：中外製薬（株）
「NMOSD の長期治療戦略」

座長：河内 泉（新潟大学大学院医歯学総合研究科医学教育センター / 新潟大学脳研究所・医歯学総合病院脳神経内科）

- (1) NMOSD 診療 up date 日本からのリアルワールドデータを

吉倉 延亮（岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野）

- (2) 再発予防の先にあるもの～NMOSD 治療における Bio 製剤の役割を問い直す～

宮崎 雄生（北海道医療センター脳神経内科）

＜ランチョンセミナー 19＞ 第5会場「錦」 共催：バイオジェン・ジャパン（株）
「MS 治療における “Cure & Care” の実装」

座長：藤原 一男（福島県立医科大学医学部多発性硬化症治療学講座）

- (1) 長期管理を見据えた MS 治療戦略—有効性と安全性のバランスをどう考えるか—

三須 建郎（東北大学病院臨床研究推進センター / 脳神経内科）

- (2) 患者とともに選ぶ MS 治療—SDM がもたらす治療継続と QOL 向上

新野 正明（北海道医療センター脳神経内科）

<ランチョンセミナー 20> 第6会場「花A」

共催：武田薬品工業（株）

「CIDP・MMN 治療 Update」

座長：國分 則人（獨協医科大学脳神経内科）

（1）捉えどころのない MMN を捉えるには：実践・課題・展望

大崎 裕亮（徳島県立中央病院脳神経内科）

（2）CIDP 治療の最適化～現在と未来～

海田 賢一（埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科）

<ランチョンセミナー 21> 第7会場「花D」

共催：（株）コスミックコーポレーション

「自己免疫性脳炎 ～早期治療につなげる抗体検査の選び方・使い方～」

座長：高橋 幸利（静岡てんかん・神経医療センター小児科）

演者：原 誠（日本大学医学部内科学系神経内科学分野）

<創薬推進委員会企画> 第1会場「エミネンス」

座長：松田 尚人（バイオジェンジャパン株式会社開発本部）

藤本 陽子（ロート製薬株式会社）

演者（あいうえお順）：アステラス製薬株式会社，アルジェニクスジャパン株式会社，シミック株式会社，東和薬品株式会社，ニプロ株式会社，日本イーライリリー株式会社，ノバルティスファーマ株式会社，バイオジェン・ジャパン株式会社，藤田医科大学病院，メドベイス・ジャパン株式会社

近年，日本ではドラッグラグ・ドラッグロスの解消と革新的な医薬品への患者アクセス向上が重要な課題となっており，その実現に向けた治験環境の整備が強く求められています．一方で，治験に関する情報が医療従事者や患者さんへ十分に届いていないことが，治験参加機会の損失や被験者募集の課題につながっています．

創薬推進委員会は，治験の周知，患者募集支援，さらには持続可能な治験エコシステムの構築を通じて，革新的な治療法を一日でも早く患者さんへ届けることを目指しています．本セミナーは，その取り組みの一環として，治験の認知向上と参加促進，ならびに治験関係者間の連携強化を目的に企画されました．応募のあった9社及び1大学から，計11演題を採択し，神経領域における最新の治験情報を広く共有します．

セミナー前半では，製薬企業や医師主導治験の実施者が，現在進行中または計画中の治験についてピッチ形式で発表します．参加者は，公開可能な最新の治験情報や研究の背景，対象疾患，今後の展望などを短時間で効率的に把握することができます．

後半では，演者と参加者が直接対話できる自由でオープンな情報交換の場を設けます．治験実施者に直接質問し，実施上の課題や患者紹介の可能性について議論いただくことで，治験への理解を深めるとともに，新たな連携や協力関係の構築につながることを期待しています．

本セミナーは，「どのような治験が行われているのか知りたい」「患者さんに新たな治療機会を届けたい」「脳神経内科領域の研究を支援したい」と思われる学会員にとって，有益な情報収集とネットワーキングの機会となります．神経領域の治験推進と患者さんへの新たな治療選択肢の創出に向けて，ぜひご参加ください．